

環境報告書

2014



八千代工業株式会社

■集計対象期間

国内事業所 2013年度（2013年4月～2014年3月）

海外拠点 2013年1月～12月

■対象事業所

国内事業所

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
 鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
 鈴鹿工場 亀山事業所（三重県亀山市）
 四日市製作所（三重県四日市市）
 栃木研究所（栃木県さくら市）
 埼玉研究所（埼玉県狭山市）

海外拠点

イー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）
 ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
 ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
 ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アラバマ エル エル シー（米国）※1
 ヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド（カナダ）※2
 ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ（メキシコ）
 ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
 サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
 ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）
 八千代工業（中山）有限公司（中国）
 八千代工業（武漢）有限公司（中国）
 ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

※1 2014年10月1日より、ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー に社名変更

※2 2014年6月27日をもって事業譲渡しております。

※以下の事業所の環境情報は対象としておりません。

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
 株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町）
 株式会社ワイジーテック（三重県員弁郡東員町）

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）
 ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
 ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）

ヤチヨ インダストリー（ユークー）リミテッド（英国）
 ユー ワイ ティー リミテッド（英国）
 ヒラタ ヤチヨ リーシング リミテッド（英国）

■ヤチヨの環境情報の公開

八千代工業は、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業企業ウェブサイト「環境への取り組み」ページURL

<http://www.yachiyo-ind.co.jp/csr/eco/>



●トップメッセージ	04
●ヤチヨ環境基本方針	05
●グローバルの環境マネジメント	06
●2013年度 削減管理実績	07
●削減管理目標	08
●環境負荷実績推移	09
●CO ₂ 排出量 国内事業所／海外拠点	11
●環境施策事例	13
●環境に関わる社会活動	15



社会からその存在を認められ、 期待される企業を目指して

私たちヤチヨグループは、地球資源を利用し恩恵を享受しながら事業活動を行っており、二酸化炭素の排出や廃棄物の発生といった環境負荷を地球に与えています。その責務として、従来どおり法令上からの必要性や社会からの要求に対して取り組むだけでなく、いかに環境負荷を減らしていくかを企業戦略の一つとして捉えて、取り組んでいます。

このような考えのもと、製造業であるヤチヨグループは、製品の軽量化、材料リサイクルの促進、材料ロスの低減、製造工程の効率化(サイクルタイム短縮)などによって、環境に配慮した製品づくりを行っています。樹脂製燃料タンクにおいては、高剛性の樹脂材料を使用することで薄肉化、軽量化を図り、サンルーフでは、構成部品の複合化により部品点数を低減するなど、材料やエネルギーの使用量低減に取り組んでいます。同時に、製品の軽量化によって自動車の低燃費化に積極的に寄与しています。

今後、開発から生産、物流まで私たちの全てのものづくりのプロセスの中で、環境活動を強化し



ていくにあたり、2014年8月には“持続可能な社会の実現”をキーワードとして「ヤチヨ環境基本方針」の改定を行いました。この中で基本方針を「わたしたちは、責任ある社会の一員として、持続可能な社会の実現に向け、全ての企業活動を通じて、積極的に地球環境の維持向上に努めます。」と決めました。この方針のもと、従業員一人ひとりが環境意識を向上し行動してまいります。次世代へクリーンな環境を引き継ぐことは、ヤチヨ企業理念の基本理念“人間尊重”および“顧客第一”に基づくものであると考えています。

また、環境マネジメント体制を日本・北米・南米・中国・アジア大洋州の5地域で組織し、統括責任者および実務責任者を配置することで、真のグローバル企業として環境活動をより実効性のあるものとしていきます。

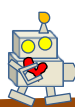
このように2014年からは、活動の基盤を整えた上で、最重要課題であるCO₂排出量低減の目標達成に向けて、施策による低減値の積み上げに重点を置き、事業環境の変化に影響されにくい削減管理体制を確立していきます。

具体的な取り組みでは、燃料タンクにおいて、自動車の環境規制では最も厳しいとされる北米のLEV IIIに対応した開発にめどが付き、また中国の第六段階自動車排ガス基準(京六)への対応に向けても製造方法などの開発を加速していきます。四日市製作所における完成車生産では、軽スポーツカーの受託生産を契機に少量高効率を実現する独自の生産ラインを構築していきます。

ヤチヨグループは、これからも「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、今後さらに環境課題の施策推進を加速させてまいります。

八千代工業株式会社
代表取締役社長

也本裕詞



ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。

ヤチヨ環境基本方針

環 境 基 本 方 針

わたしたちは、責任ある社会の一員として、持続可能な社会の実現に向け、全ての企業活動を通じて、積極的に地球環境の維持向上に努めます。

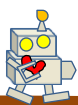
行 動 指 針

- (1) 事業活動、製品、サービスにおいて、地球環境に配慮し、環境課題の継続的改善を図り、環境負荷の低減および汚染の予防に努めます。
- (2) 全ての企業活動を通じて、資源・エネルギーの節減と資源循環に努めます。
- (3) 事業活動の各段階で発生する廃棄物・汚染物質の低減と適切な処理に努めます。
- (4) グローバルで環境改善活動に積極的に参画し、存在を期待される企業を目指します。

1998 年 6 月 25 日 制定
2014 年 8 月 26 日 改訂

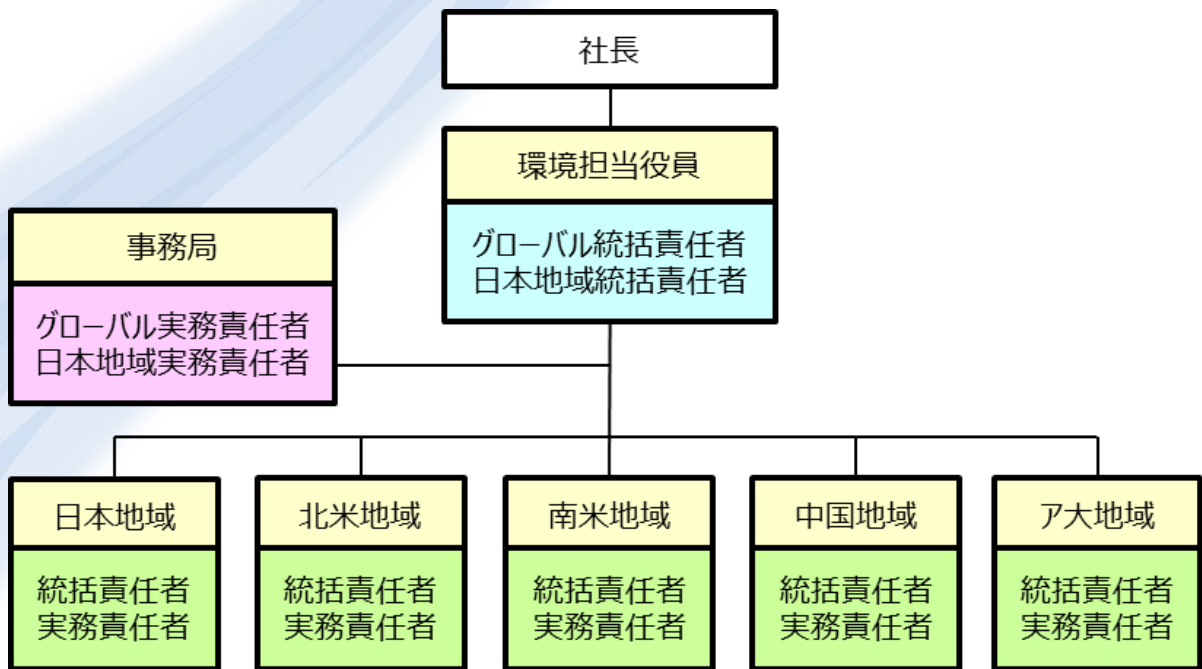
八千代工業株式会社 代表取締役社長

花本裕詞



グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに実効性のあるものとするため、世界5地域で組織し、それぞれに環境統括責任者および環境実務責任者を配置しました。また、国内外すべての事業所に、環境管理責任者および環境推進担当者を配置した運用体制を整備しています。

●環境マネジメント体制図



※ア大 = アジア大洋州

日本での環境保全活動は、各事業所において決定される環境中期計画と年度目標をもとにした環境マネジメントプログラムに基づいて進められています。



●2013年度の削減管理実績

達成度判定：○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満

項目		目標	実績	達成度
CO ₂ 総排出量		41,500t-CO ₂	33,085t-CO ₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 (売上原単位)	部品事業	2010年度比 3%減	8.2%減	○
	完成車事業	2010年度比 3%減	68.9%増	×
CO ₂ 排出量 低減施策効果		500t-CO ₂	476t-CO ₂	○
VOC※排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	部品事業	2010年度比 3%減	0.1%減	×
	完成車事業	2010年度比 3%減	14.3%減	○
水資源使用量 原単位 (売上原単位)	部品事業	2010年度比 3%減	12.5%減	○
	完成車事業	2010年度比 3%減	24.0%増	×
廃棄物量 原単位 (売上原単位)	部品事業	2010年度比 3%減	7.5%減	○
	完成車事業	2010年度比 3%減	25.7%増	×

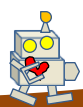
CO₂排出量原単位の目標のみ本田技研工業の指標に基づき、基準年度を2010年に設定。
電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378t- CO₂を使用しています。

※ VOC (Volatile Organic Compounds) = 揮発性有機化合物

●レビュー

CO₂排出量原単位の完成車事業の分野においては、CO₂排出量低減施策によって総排出量で1.4%の低減を図ったものの、完成車事業の11次中期の大幅な売上減少が影響し、原単位が悪化しました。同様の背景により、水資源使用量原単位および廃棄物量原単位も共に悪化しました。

VOC排出量原単位の部品事業の分野では、部品事業の減産影響による塗装効率の低下により悪化しました。また、完成車事業の分野では、ロボットティーチング精度アップなどの施策に加え、機種構成比の変化によるメタリック色比率の低減により、VOC排出量が減少するとともに原単位も向上しました。



ヤチヨは、責任ある社会の一員として、2014年度12次中期のスタートに当たり、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めていきます。

とりわけ、地球温暖化、エネルギーリスクを重要課題と認識し、CO₂排出量の低減においては、2013年度から新たに目標を見直し、環境負荷の低減に向けて取り組みをさらに強化していきます。

●削減管理目標の変化点

・CO₂総排出量

1990年度を基準年として毎年1%ずつ500t-CO₂としていましたが、2013年度からはこれを2%ずつ1,000t-CO₂としました。

・CO₂排出量 原単位

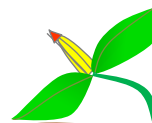
2014年度12次中期のスタートに当たり、11次中期末の2013年度を新たに基準年度に設定し、目標を定めました。

・CO₂排出量 低減施策効果

2013年度から、環境施策によるCO₂排出量の低減目標を新たに導入し、国内全事業所で年間500t-CO₂と定めました。

●2014年度からの削減管理目標

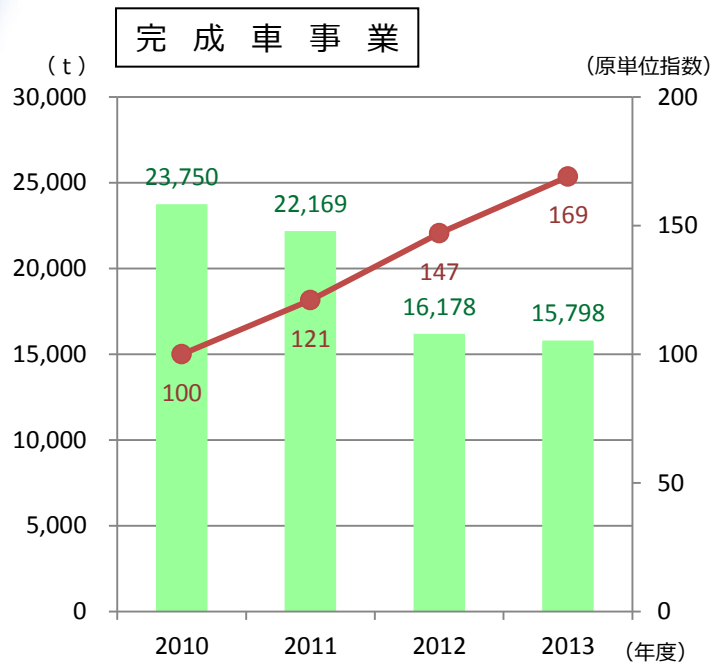
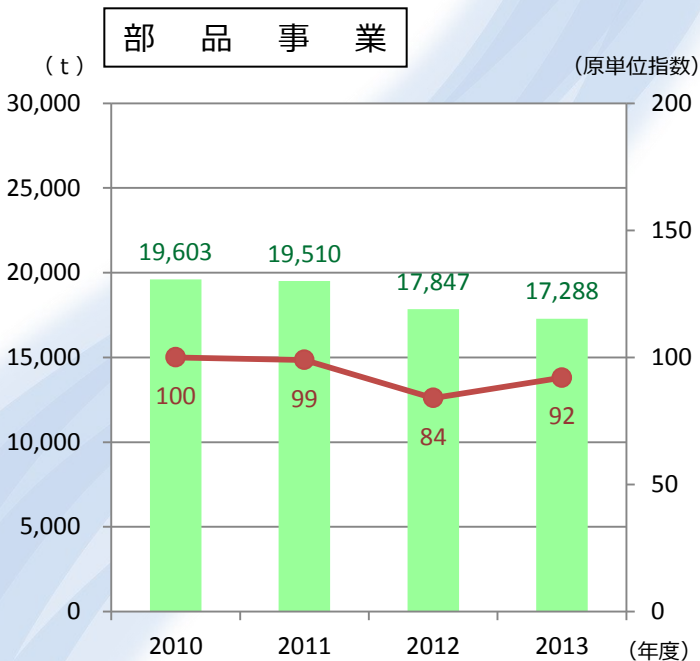
項目		2014年度	2015年度	2016年度
CO ₂ 総排出量		40,500t-CO ₂ 1990年度比 17%	39,500t-CO ₂ 1990年度比 19%	38,500t-CO ₂ 1990年度比 21%
CO ₂ 排出量 原単位 (売上原単位)	部品事業	2013年度比 1%減	2013年度比 2%減	2013年度比 3%減
	完成車事業			
CO ₂ 排出量 低減施策効果		500t-CO ₂	500t-CO ₂	500t-CO ₂
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			
水資源使用量 原単位 (売上原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			
廃棄物量 原単位 (売上原単位)	部品事業	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
	完成車事業			



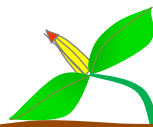
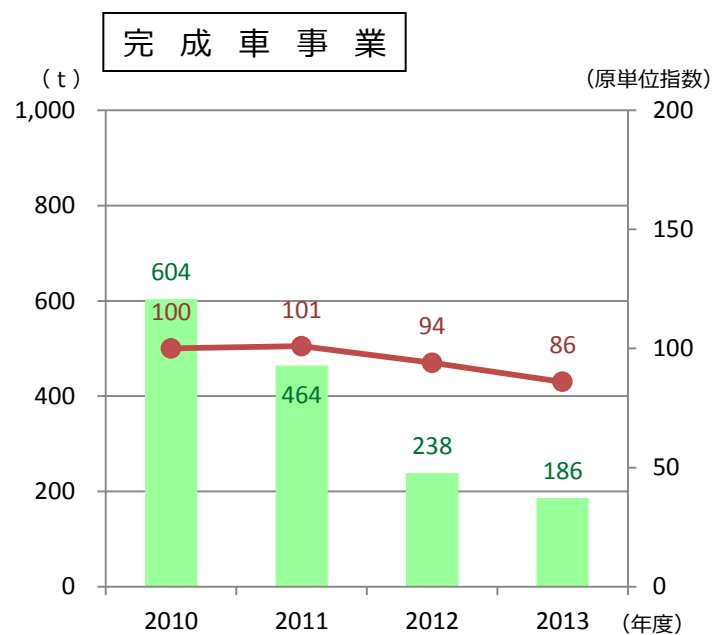
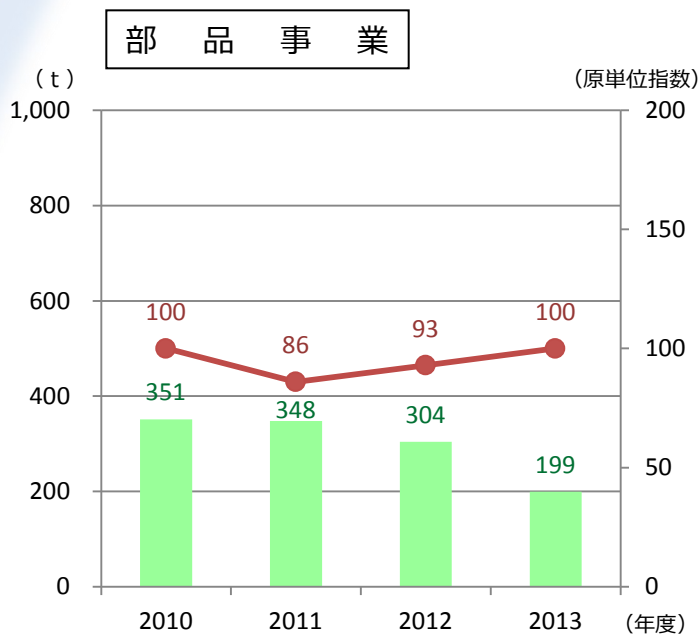
環境負荷におけるそれぞれの量とその原単位指数

原単位指数は、2010年度を100とした指数で表しています。

■CO₂排出量



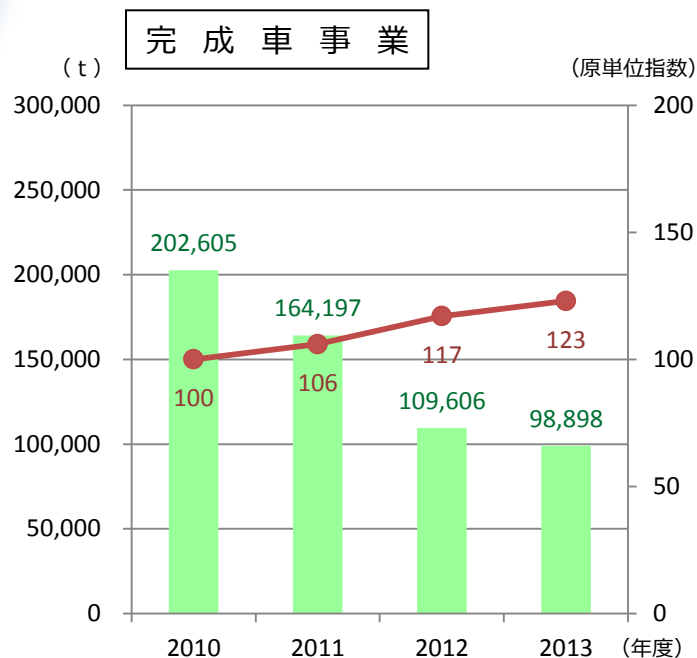
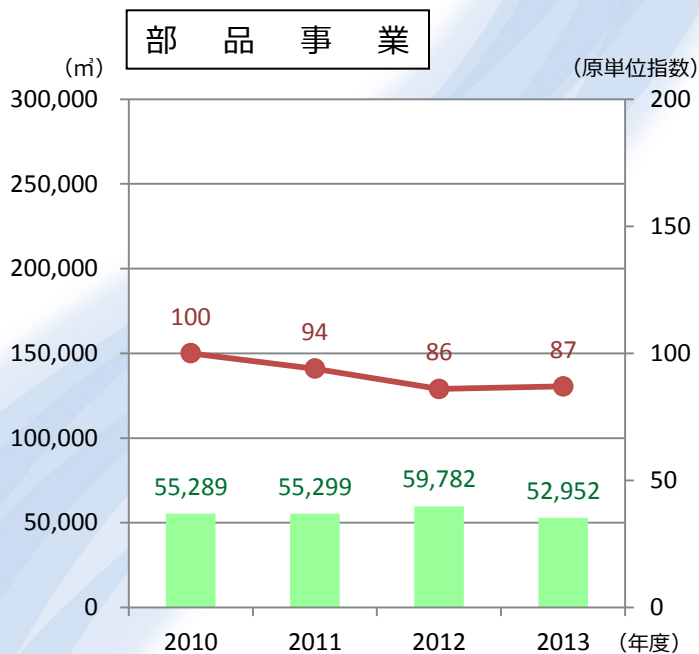
■VOC排出量



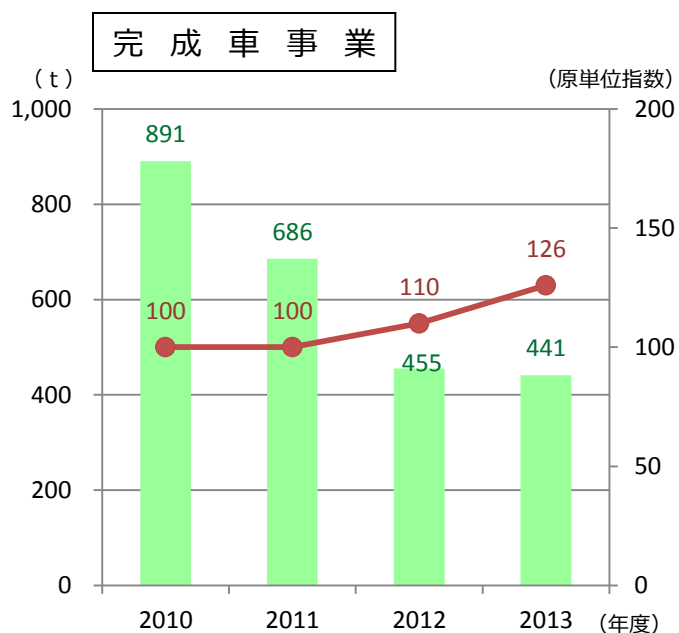
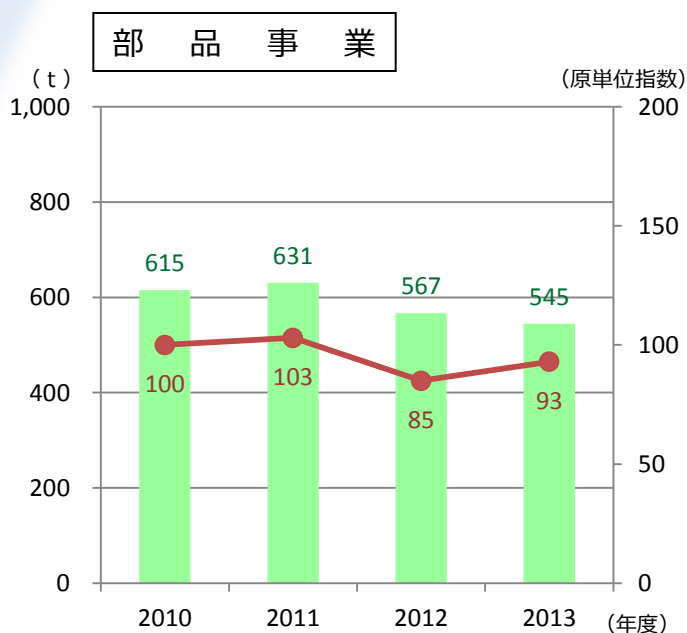
環境負荷におけるそれぞれの量とその原単位指数

原単位指数は、2010年度を100とした指数で表しています。

■水資源使用量



■廃棄物量



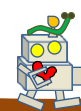
●国内事業所におけるCO₂排出量

単位：t／年

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
目標	43,000	42,500	42,000	41,500
実績	43,353	41,679	34,025	33,085

事業所	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
本社および 柏原工場	6,688	7,074	5,167	5,210
鈴鹿工場	6,321	5,635	4,807	3,753
鈴鹿工場 亀山事業所	5,401	5,818	5,969	5,733
四日市製作所	23,750	22,169	16,178	15,798
栃木研究所	1,193	983	1,324	1,623
埼玉研究所	—	—	580	968

2014年度からの基準年を2013年度とし、CO₂排出量低減に取り組んでいきます。



●海外拠点におけるCO2排出量

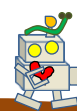
単位：t／年

地域	拠点名	2011年	2012年	2013年
北米	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)	7,201	8,063	10,757
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アラバマ エル エル シー (米国) ※1	4,592	5,012	5,265
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (米国)	2,950	3,279	3,412
	ヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド (カナダ) ※2	2,824	2,843	3,271
	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (米国)	706	702	655
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デー シー ブイ (メキシコ)	—	—	333
南米	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ (ブラジル)	74	953	377
アジア 大洋州	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)	4,989	7,015	5,806
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (インド)	—	766	2,268
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)	—	—	408
中国	八千代工業 (中山) 有限公司	4,153	3,982	5,531
	八千代工業 (武漢) 有限公司	2,704	3,600	4,279

※1 2014年10月1日より、ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー に社名変更

※2 2014年6月27日をもって事業譲渡しております。

国内事業所と海外拠点の情報コミュニケーションを図り、2014年からは
海外拠点においても、2013年を基準年として原単位管理を進めます。



事業環境の変化に影響されにくい削減管理体制として、施策によって低減したCO₂排出量が把握できるよう、2013年度から管理項目に追加しました。国内の全事業所を対象に、年間500 t の低減を目標として全施策を環境委員会で一元管理し、全社委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。

全事業所95施策 → CO₂低減効果 = 476 t / 年

■主なCO₂排出量の低減施策

●空調機および冷凍機用の省エネ機器の導入

鈴鹿工場 亀山事業所



30分に1回、圧縮機のみ停止制御

CO₂低減効果 5.6 t / 年 (4~10月)

※2014年度 四日市製作所 福利厚生棟の空調機に水平展開

●電力見える化 システム活用

鈴鹿工場



電力の見える化システムを活用し、負荷の低い変圧器の系統を集約し、500kVAと1000kVAの2台の変圧器を停止

CO₂低減効果 8.5 t / 年

●エアー供給の最適化

四日市製作所



夜間部分稼働用に適正容量のコンプレッサーを導入し、過大能力設備を停止

CO₂低減効果 99.7 t / 年

※2014年度 柏原工場に水平展開



●太陽光発電システムの導入

再生可能エネルギーへの取り組みとして、四日市製作所へ太陽光発電システムを導入し、2014年3月8日から稼働を開始しました。



福利厚生棟の屋根へ、ホンダソルテック製太陽光パネルを120枚設置



発電の状況は、福利厚生棟の玄関口に設置した大型モニターで常時把握

発電量

16,603 kWh／年

(福利厚生棟の消費電力のおよそ8%)



CO₂低減効果

6.2 t／年

■海外拠点のCO₂排出量低減施策の事例

海外拠点の環境施策は、施策によるCO₂低減目標である年間500 t の対象としていませんが、各拠点で独自の取り組みを進めています。

●エアー供給の最適化

八千代工業（中山）有限公司（中国）



必要出力に対して過大な能力であったコンプレッサーを停止し、適正容量のコンプレッサーを導入

CO₂低減効果 54.9 t／年

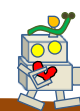
●断熱カバー取り付けによる熱ロス低減

サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）



2,500 t 射出機のシリンダーに断熱カバーを取り付け、熱ロスを低減

CO₂低減効果 4.3 t／年



ヤチヨは、それぞれの事業所で環境活動を積極的に行い、活動を通じて地域社会との共生に努めています。

●環境コミュニケーション

四日市製作所

毎年、近隣のまきの木台自治会様との懇談会を開催し、環境への取り組みの説明および工場見学を行っています。

2013年7月13日開催



福利厚生棟ウェルカムホールでの説明の様子



塗料調合室前での現場説明の様子

●地域クリーン作戦

各事業所では、毎年地域清掃活動を実施しています。



7月27日 マリーナ河芸の浜辺（鈴鹿工場）



11月16日 工場周辺地域（四日市製作所）



<2013年環境報告書デザインコンセプト>



私たちをはじめこの地球上の全てが地球に生かされており、その地球を活かすのは私たちの使命です。2014年度の表紙デザインでは、人間、動物、植物が生きていくためには「光、水、空気」が必要であり、それらに生かされて永く共存していく姿を表現しました。

その共存するためのやさしさや思いやりの心＝花が、傘となって私たちが生み出すモノ＝ロボットに心が伝わる、そんなお客様に喜ばれるものづくりの気持ちもイメージしています。

2013年度の「自然を背景にしたロボットとムシ」が再び登場していますが、環境への取り組みおよび生物としての種の連続性の意味を持たせました。

デザイン：総務部 広報ブロック 田村 博史



当社は、平成26年2月に日本政策投資銀行（DBJ）より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが十分」と評価されました。

●編集

全社環境委員会

委員長 本告 次男

事務局 倉田 周市

●お問い合わせ

管理本部 総務部 総務ブロック

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL 04-2955-1211（代表）

FAX 04-2955-1217

発行	八千代工業株式会社 総務部
発行責任者	総務部長 水谷 泰之
発行日	2014年 10月



環境報告書 2014

八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393